# おーい図書館 No.100

発行 おーい図書館
代表 青木 和子
松戸市牧の原1-104-416
TEL. 047-311-0886

## 100号記念特集 図書館への想い

「おーい図書館」の活動は13年目に入り、会報は、今回で100号を数えます。

これは果して、喜ぶべき事なのか、悲しむべき事なのか……と思いますが、遅々とした歩みではあっても、とにかくここまで続けて来られた事に感謝し、これからもさらに活動を続けて行こう、と新たなスタート地点に立つ節目としての思いを込めて、特集を組みました。

## 上野図書館の思い出

佐藤 昌男

私が上野図書館に通い始めたのは、20代始めの頃である。当時、私は家族と上野駅近くの町に住んでおり、図書館は至近距離にあった。館内では、横光利一の「旅愁」を熱心に読んだのを記憶している。

冬の時節になると、職員がバケツに入った石炭をストーブに放り込んでいく。上野の森はいつも森閑としており、時折鴉の鳴き声が静寂を破っていた。

私の図書館行脚の嚆矢となったのは、まさに上野図書館であった。

## ひと言メッセージ

小金上総町 杉田 久美子

公園の一画にすてきな図書館がほしいと思っていたが、叶いそうもない。

今は、駅ビルでもデパートの中でも、あるいは駅近くのちょっとレトロな建物でも借りて、市民の居場所としての図書館、文化活動の発進地としての図書館、そして働きたいと思われるような、若い人の雇用の場としての図書館が、早急に欲しいと思う。

平川 和子

今は、図書館を使う暇のない毎日を送っています。

職場と家とを往復する暮らしから脱出する日を夢に、毎号を手渡して頂くという栄誉(?)を得て、手

書き会報を楽しく読ませて頂いております。

新しい世界を拓く言葉が、どのように生まれてくるのかにこだわってきましたので、これからもそうありたいと思います。

市立図書館OB　宮田　正宏

松戸の図書館は、質と量はともかく、館数だけは全国有数の多さで、恐らく密度的には日本一の便利さだと思う。

たまたま読んだ阿刀田高（元国立国会図書館職員）『陽気なイエスタディ』に、地元の分館を上等な貸本屋として予約制度で大変重宝している……ことが書かれている。

「図書館のレベルは、利用者の質に比例する」と言われている。

不景気時代に中央図書館の新設は、容易ではないが、大いに利用して、注文を出して、現状でできる事から改善させていかなくては。

おーい、図書館へ行こうよ!!

鎌瀬　容子

ある日、図書館で絵本の読み聞かせをしている母子を目にし、20年前を思い出しました。

当時、幼い息子のお気に入りの本を、何度も読んだものでした。それでも飽きずに目を輝かせました。心の中には、宝物の貯金箱がたくさんできました。

心を育んでくれた図書が、今も語り継がれている事をうれしく思い、この平和な世の中が、今後も続く事を切に願います。

そのために、自分にできる事は何なのか？一人〳〵が原点に立ち戻り、考えてみませんか？

伊藤　和子

先日、ニューヨーク市立図書館の話を小耳に挟みました。

国の成立が異なるから、一概には言えないけれど、その規模の大きさたるや、何んと、本館があって周りに専門別の館が15、その外に普通の図書館が80もあるとの事。驚いて、引っくり返りそうでした。

図書館の概念が違う！

市民の生活に絶対不可欠なものとして存在し、そこが人々の活動の基盤であるという事実を、たとえ外国の例としても、もっと知るべきだと痛感しました。

# "祝" おーい図書館100号発行!!

みこぜ　松原　和子

初回より、一度も忘れず、温もりと共にひたすら送り続けて頂き、今、改めて「おーい図書館」を懐しく読みためております。

近隣の図書館見学、市議会傍聴、コンダン会、月一回定例会のお誘いの連絡と報告。また、ビリンバウ即興演奏の丸山祐一郎さん、共に歌った李政美さん、命を大切にと、心をつなぐソロ・ライブの松元ヒロさん。良きご縁です。

特に「91号」は、ヒットでした。図書館についてのアンケートの実施、実態把握、中味の報告のていねいさは、頭が下がりました。生の声を反映し、具体的な行動の積み重ねが、いつの日か、変われる明日がくると思います。

「94号」で、図書館は、「建物ではなく、機能・人・蔵書・利用者・利用法」とありましたね。同感です。

私も、共に学ぶ喜びを持続し、絵本の再読、新発見のメモまとめ、作家・画家をおたずねし、人と本が共に育ち合い、平和で豊かな暮らしが出来るよう、祈ります。

津田沼　佐藤　良彌

「おーい図書館」という名前をみて、最初は「あゝ、そうか。松戸には、あまり良い図書館がきっと無いんだな！それを、みんなで協力して作ろうとしているんだ」と、私は勝手に考えていました。

ところが、松元ヒロのパントマイムを観、「草の乱」を見て「まてよ、この会は、そんな単純なものではないぞ。それは、"おーい人間、立派な人間にみんなでなるように、頑張ろうよ"ということなんだぞ、この会は！」と思った。

大変だ、グウタラに生きて来たボクには、とてもそんな事は…(?)

老人クラブ　W

100号発行、おめでとうございます。これを記念して、私、老人クラブに入会いたしました。

永年の痛勤に耐え、滞りなく税金を払いつづけた。やっと我が故郷、楽園の松戸に帰りついたところ、山川草木みな切り払われ、街並は極彩色に乱れる中、図書館だけは、昔のまま残っていました。

並ぶ図書類も古文書に準じて懐しく、今浦島は、寒涙にむせぶのみ。共に帰郷した定年戦士は、この町会六百余人。このパワー、カラオケだけに費してなるものか！がんばれ、「おーい図書館」。わしらがついている。

## 私の図書館利用法

神 惇子

定年退職後、新聞は図書館で読もうと考えていたが、図書館は新聞を読みたい人でいっぱいで、なかなか読めない。

今は、往復一時間の散歩をかねて、県立西部図書館に行って、地方紙をまとめて読む。沖縄の状況など、全国紙では、伝えてくれないから。

市立図書館本館は、古い新聞記事を探すのには便利。切り抜きそこなった記事を、コピーできるから。（'05・1・30）

## 本との出会い

安増 幸子

私たちの人生には、さまざまな出会いがありますが、本との出会いが人生の大きな転換点になったという人は、意外に多いのではないでしょうか。

幼い時に母親が読んでくれた本、町の図書館に行って出会った本、学校の図書館で出会った本、新聞の広告を見て求めた本など、さまざまです。

その中で、絶えずそこに帰っていきたい泉のような本があります。何かに躓いて、自分探しをしていた時に出会った本です。

各地の図書館を見学する度に、自分たちの町の図書館の貧しさに失望させられます。

心が荒んできた時に、ふっと出かけて、日常のすべてから解放されて、一日いたくなるような図書館があります。

松戸の町に、文化の香りのする風が吹く日は、何時来るのでしょうか。

## 不当な税金支出約二〇〇億円

片岡 久明

最近わかったのですが、松戸市では20年前から、市の職員に調整手当として、本給の10％ー年総額約15億円程が支払われてきた。

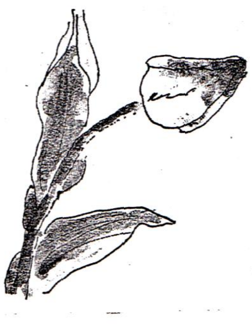
調整手当とは、民間給与との格

差を調整するためのものだ。
バブルが弾け、民間との格差が、多分逆転したのだから、この支出は不当なものとなった筈である。つまり、バブルが弾けた15年前以降の、手当支出総額約200億円は、不当に支払われたと言っていいのではないか。

市財政が段々ひっ迫してきた原因は、大規模公共事業など多々あるけれど、右記の調整手当もかなりの比重を占めていると思う。そして、このひっ迫は、市民サービスの低下ともなっている。

このままの市政では、劣悪な図書館財政の転換も、当分望めないだろう。

市政を変えよう！



## 図書館への想い

『松戸子どもの本ネットワーク』
所属・みちのべ文庫
佐藤　浩子

市立図書館本館には、本のほかにまだ備えて欲しいものがあります。

室内では、ゆっくりと頁を繰ることのできる座席とスペースです。

屋外では、心地よい蔭を作る木立と、目を休ませるベンチが欲しいものです。その近くには、温かい飲み物の自販機も備えてください。

そうしたら、図書館で過ごす一日は、ずっとゆとりのあるものになるでしょう。

## 市民の声が図書館を動かすか？

松戸市議　武笠　紀子

「おーい図書館」12年の活動にもかかわらず、松戸の図書館は、情ない。20年前のまま、時を止めてしまった。

私は独自性が好きだが、松戸の図書館は、独自性ではなく、予算が無いだけだ。

19もの分館というが、館長もいない貸し出し施設で、本を楽しんだり調べものをしたり、という機能が足りない。市民はぶつぶつ文句は言うが、あきらめて市外の図書館を頼る。

あきらめず、市民が大きな声を上げれば、図書館施策も前に進むのではないか、と思う。

## 子どもにとって魅力的な図書館を

森口 優子

市民にとって、図書館は、文化的財産であり、生きていくための心のオアシスです。

殺伐としたこの時代、特にこれから一人前の大人に成長していく子どもたちにとって、生きる力を培われるような本との出会いは、とても大切です。

一日も早く、専門の司書がいて選書に心を配り、自然に足が向くような、心地よい空間としての児童室が備わった、新しい図書館の建設を、切に望みます。

## 図書館 半世紀

塩崎 俊一

図書館の静謐さを最初に好きになったのは、戦後がまだ若かった半世紀前である。

もっとも、大学浪人だった自分は、不純な動機もあった。どきどきする片思いの彼女にも会える楽しみがあったのだ。ほとんど周囲は、若人が占めていた事を思い出す。

今、住まいから5分の処に「県立西部図書館」があり、調べ物に便利で、よく行くが、多数派は高齢のおじさんたち。まちを闊歩する、まちづくりの元気なおばさんには、ほとんどお目にかからない。おじさんのたまり場だ。

## おーい!「おーい図書館」

よりよい練馬区の図書館をつくる会

関 日奈子

「おーい!!〝おーい図書館〟」と叫んだら、「おーい図書館」とこだまがかえってきました。

今、練馬の図書館は、委託化の嵐をうけて、ぐっと顔を向かい風にまともに吹かれ、足元ふんばっています。利用者と職員が手をつないで。

さて、図書館は利用者が主人公です。

100号をむかえた、松戸市の市民のみなさんの「おーい図書館」の継続のエネルギーは、そこにこそあったのだ、と、私は思います。

積み重ねた学習、松戸市の図書館計画への提言、要望などの活動を、今後は、行動へと踏み出す時です。

①県内公立図書館サービス指標をみると、蔵書冊数は、ワースト2。図書費も低い。市議会・教育委員会へ、増額を陳情すべし。

②会員が利用している図書館の職員（正規・公社を含めて）とのサービスについての話し合いをすべし。改善策を指摘し、実現の方策を発見すべし。たとえば、レファレンスについて。

③会員は、自分の利用している図書館を愛すべし。

渡辺 則子

相模台の大蔵省関税分析所移転後の跡地は、松戸市の中央図書館建設用地として、以前から候補に上っていました。

ところが、いざ具体化してみると、松戸市は、聖徳大学にゆずったのか買われてしまったのか不明ですが、聖徳の土地になってしまいました。

聖徳は、生涯学習センターを建てて市民にも開放する、といっていました。しかし、跡地には建てず、松戸駅東口に建ててしまいました。

今、相模台の環境の良い跡地は、草地のままになっています。見るたびに、口惜しく、残念でなりません。

49万都市の中央図書館は、いつ実現するのか、あるいは幻に終わるのか、今は、絶望的な心境です。

松戸市議 末松 裕人

「本当は、新しい市立図書館の実現で、100号くらいで終わりにしたかったのですけど……」と、電話口の向こうで照れながら話す青木さんに、私は常日頃から前向きな強い情熱を感じていました。

「おーい図書館」の学習会にも何度か参加させていただきましたが、「図書館は、人（への情熱）がつくるものだ」ということこそ、この会の活動で学ばせていただいた要諦です。

だから、このまちには素晴しい図書館ができると、私はそう確信しています。

# 図書館への想い

松戸「おおかみと七ひきのこやぎ」

図書館とは、世代の枠を超え、共通の理解・関心や、情報の交換が起こせるノーマライセンター的意味も、多く含まれているのではないでしょうか？

そこから、基本的な人間関係も、自然な形で生まれるのではないでしょうか？イベントやセッティングをしなければ交流をもてないことこそ、考えなければならないことのように思います。

様々な人たちが、人生の中で一つの場所を共用できる施設ー図書館こそ、たくさんの人が足を運べるところにしなければ。それでこそ、すべてのことが良い循環をもった環境にもなるのではないでしょうか？今こそ、図書館設備を充実させることの意味は深いのではないでしょうか？

読解力をのばすにはどうしよう、子どもの居場所がない、元気のよい壮年期の方の行き場もないーこういう現状が回復できるのではないでしょうか？

自然なかたちで世代交流もでき、自然な形でいろいろな事が学べるーこの意味をよく考えてほしい、と。

人間としての原点が何か、図書館のあり方や、設備への想いが、重くなるばかりです。

# 市民の手で……

小林 孝信

各地を歩き、図書館巡りが楽しみとなっている。それぞれの国立図書館や、大学の図書館を訪れることが多い。

シンガポール大学は陽光いっぱい。オクスフォード大学の、学科用の、小型で家庭的な空間など、ひとつひとつが懐しい。

日本でもようやく、大学図書館が一般図書館とリンクし、部外者の利用が可能となり始めた。

さてその中で、市立図書館運営は大いに市民参加を広げ、「障害」者・高齢者にやさしく、また、深夜開館に向けて新しい像を目指してほしいと思う。

川鍋 道子

新松戸在住の2児の母です。土曜日や日曜日に子どもたちを誘って近所の分館に行っても、なかなか長い時間をそこで過ごすことができません。

子ども用のコーナーが分かれているわけでもないので、大人に遠慮しながら、小さい声で絵本を読んでやることしかできません。結局、そそくさと本を選んで、すぐに帰ってきてしまいます。

もう少し正々堂々と(?)、子どもたちに本を読んであげられる図書館が、松戸にあるとよいなあ、と思います。

## いつ実現できる？ 中央図書館

松戸市議　吉野信次

中央図書館構想が後景に押しやられてから、数年が経ちました。230億円もの歳入不足を理由に、「第二次実施計画」は全面的に見直され、行財政改革がスタートしています。

「おーい図書館」のみなさんと浦安の図書館を見学し、常世田館長の話を聞きながら、情報が発信できる図書館はできないかと期待し、何度も議会で質問を重ねてきました。しかし、事態は悪化するばかりで、先行きの展望が見えません。

そのような中で、「おはなしキャラバン」のあり方と経費の問題が、クローズアップしてきました。図書等購入費を上回るキャラバン関係経費に、異常さを感じる市民が多くなってきたのだと思います。

こうした問題点の検討も含めて、松戸の図書館のあり方を追求していきたいと思います。

西山怜子

松戸市立図書館が昭和48年に出来たが、当時は毎日のように利用していた。

皮肉なことに、「おーい図書館」のメンバーになっているが、図書館を利用する機会が少なくなっている。しかし、図書館への思いは深い。

先日、久し振りに本館へ行った。現状をみれば、他の地域や世の流れから見て、松戸市・松戸市民たるもの、「このままでは放置できるものではない」と、妙に確信し、納得した。楽観的な考えが浮かび、我ながらおかしかった。

## 市立病院に よみきかせに行って

平　淑美

月一度、「子どもの本ネットワーク」で読みきかせに行っていま

す。
初めて行った時は、緊張し、帰りに「またね!」などと言い、あわてて「早く良くなってね」と帰ってきました。

一歳から小学生まで、体調の良い子がプレイルームに来ます。本を読んだり、折り紙・工作をしたり、その時の状況で変わります。
でも、一番感謝されるのは、つきそいのお母さんです。よみきかせの後に、病気の話を伺ったり、一緒に折り紙をしたり、おはなしの時間が必要なのは、親かもしれません。

## 「おーい図書館」機関紙発行 100号によせて……

松戸市に夜間中学をつくる市民の会　榎本博次

「おーい図書館」の機関紙が、発行100号を迎えるという。このことは私にとって、ちょっとした驚きと、すごいなーという感想を持たせました。

それはなぜかと言うと、「おーい図書館」のような日常活動が見えにくい市民団体が、その活動を伝える機関紙を100号も発行してきたということは、目立たないところで、それなりに活発に活動をしてきていたんだ、と率直に思えたからであります。

図書館についての松戸市の施策は、言葉にならないほどお寒い状況ではないかと思います。

そうした厳しい環境の中での「おーい図書館」の運動ですが市民のために、負けずに頑張ってください。

今川和子

ある日、古い新聞記事を捜したいと、近所の図書館へ行った。4〜5人座ればいっぱいになってしまう長机は、すでに満員。貸し出し用の机の端を少し空けて、「どうぞ」と言われる。

狭い場所で、立ったまま…なんとか記事は見つかったが、図書館のおそまつさに、あらためてびっくりしてしまった。

松戸市の財政も、ご他聞にもれず赤字。すべての予算が削られている。またしても図書館は遠のいてしまうのか。

それにしても、「おはなしキャラバン」の予算が図書購入の予算を上回っているなんて、納得できない。

小金原　野村　圭子

子どもの頃、学校の図書館はまさに天国だった。授業には出ず、ひたすら読み耽った。司書さんとのお茶も、楽しみだった。

当然、親は呼び出され、貸出しは学校一であるが、注意しても、きょとんとして話にならない事など、言われたそうだ。

後年、不規則な出版業界に入った時、祖母に「読むだけでは足らないのかえ」と説教をくらった。

しかし、もう一度、あの書架に囲まれた至福の時を過ごしてみたい。つくづく願うこの頃だ。

皆さん、頑張りましょう！。

## 公立図書館業務の民間委託はきけん！。

鈴木　とき子

先日の朝日新聞は、「行政改革の一環として、指定管理者制度（地方自治体の施設管理を民間団体に委託できる制度）を利用して、公立図書館の民営化が広まっている」と報じている。

全国各地で自治体が、民間の団体や会社・NPOなどに業務を委託する際の目的は「ずばり経費削減」だという。それに応えるために業者は、低賃金や労働強化をする。

取り上げられている例では、短時間勤務にして、ほかに職業を持つことができる勤務体制にしているという。そして、兼業は「外で学んだことを図書館に生かせるメリットがある」と、業者のトップは言っている。

しかし、考えてみてほしい。二つの職業を掛け持ちするということは、「専心しない」「専心できない」ということでもあり、しかも時限契約であれば、その期間を過ぎれば後はどうなるかわからない、ということだ。

そのような先の見えない働き方で、図書館は充分に機能するだろうか。持続性とか専門性は必要ない、というのだろうか。何より、知りたいと求め、文化の発信を受けたいという住民の願いに、応えられるのだろうか。

経費削減を至上命令とすれば、大事なものをなくしてしまいはしないか。

時代は私たちに味方しないけれど、流れに流されてはいけないと思う。

## 頑張ろう「おーい図書館」

松戸市議 渡辺 美喜子

「おーい図書館」という言葉を初めて目にした時に、なんてユニークなんだろう、と、思った。

浦安の図書館を見学して、考えが大きく変わった。視察で行く先々で、羨ましい限りの数々の図書館を見た。

2002年12月、皆様より要望を受けた。熱い思いとは裏腹に、進展の無さに心痛める。IT化によって、大きく様変わりする図書館事業。

皆様との約束を、一日も早く実現させたいと思う。

頑張ろう!! おーい図書館。

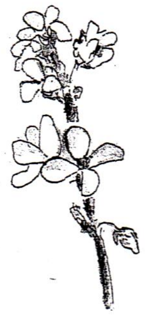
浅井 ゆき

蔦のからまる古い石造りの図書館に、一歩足を踏み入れると、天井の高いロビーの向こうに見える、光さしこむ閲覧室。自分の背より高い書架に、ぎっしりつまった本たち。

子どもの頃、足繁く通った深川図書館が、私の図書館の原風景。

たくさんの本の前を行ったり来たりして、いろいろな本を手にとってみる、ただそれだけで、至福の時。そんな魔法にずっとかかっている。

私は、こんな図書館が、松戸にほしい。



## 図書館への想い

野原 章子

私は独身時、単行本の編集者でした。主に文学分野で、フランス語系の哲学の翻訳物や小説など。著者も有名な人から無名な人、総じて大変個性豊かな人物たちでした。単行本でも行程終了時は多忙をきわめ、疲労困憊しますが、本が好きじゃなければできない仕事だと、その度にぼやいていました。

数十年経った今でも、図書館や本屋にいるのが大いなる至福のときです。

かって本を作っていた者の視座から図書館を俯瞰してみる時、単なる閲覧箱ではなく、絶えず時代と共に呼吸しつづける生きた場所、または現場でなければ、と思っています。

## 久々湊 靖夫

松戸市の図書館は、本館もさることながら、多くの分館はひどいものだ。

こうなったら、市民の手（NPO法人のようなもの）で図書館のようなものを作ってはどうか。かたよってもいいから特色のあるもの、例えば「食」に関するもの中心とか。直接生活に役立って、しかもマスメディアが伝えないようなもの、または間違った情報を指摘しているような本。

そして、本だけではなく、一時預りの保育所・学童保育・デイケアなどが小規模ながらもあって、お年寄りが子どもに読みきかせをする、宿題をみたりみられたり、ゲームをしたりする、人びとが集まれる生活密着型のライブラリーがいい。空き教室など、うってつけのスペースだ。

もちろん、基本は公立の図書館の充実だ。

## 大石 民子

私は、今でこそ書き物をよく読むようになったが、若い頃はあまり読まない方だった。

だから、図書館の利用の仕方が上手ではない。たまに利用した市民センターの分館を、地域にある図書館ってこんなものか、と思っていた。

でも、まだ行く機会を得ていない浦安や練馬区の光ケ丘の図書館を、映像で観たり、行かれた方の感想を読むにつれて、松戸の本館のおそまつさ、また、他市に比べて、児童館の少なさ等松戸の文化程度の低さを痛感している。

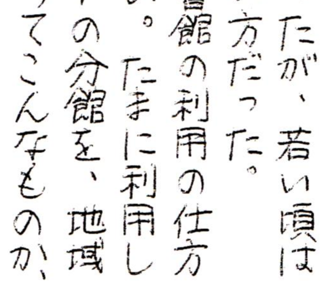
「松戸が東京に近いから住んでいる」のではなく、「子育てや老後を、安心して楽しく暮らせる町」として発展してほしい。

"おーい図書館"の活動に、拍手!!そして、新しい図書館建設が実現するよう、切に願う。

## 吉原 里絵

私は近頃、図書館で「花森安治」さんに会いました。常盤線で見かける行商のおばさんのことを話してくれました。

「水木しげる」さんにも会いました。メキシコで、お面を100ケも買ったようです。"メキシコは、形



の無いものを形にする、水木さんの大先輩〃だそうです。

私は、身近に使える図書館があるので、秀でた能力もなく、六畳一間の部屋しかなくても、知識を味方に心豊かに生きられるのです。そう信じて、今日も図書館に行くのです。

『一銭五厘の旗』花森安治
暮しの手帳／昭和46年

『幸福になるメキシコ妖怪楽園案内』 水木しげる絵
大泉実成 文
祥伝社／平成11年

## 工藤すず子

現在、私は職場復帰をして2年。会社勤めをしています。土・日の限られた時間に地域での活動ということで、他の活動と重なることが多く、なかなか「おーい図書館」の活動に参加できず、申し訳なく思っています。

昨年は、松戸でもやっとインターネットで図書貸し出しの予約がとれるようになり、予約件数も伸びているとのことですが、図書購入の予算が削減される中、充分に市民の要望に応えられているのでしょうか。

世は、ますます情報化時代。あらゆる手段で情報を手にすることができますが、できれば、ラッシュの車内ではなく、ゆっくり静かに読書に浸る時間を確保したい、と思うこの頃です。

## 私の好きな図書館

古関とし子



映画の中の図書館を、思い出します。

「フィラデルフィア」で、主人公の一人である弁護士が、裁判のための調べ物をしていた公共図書館。「ショーシャンクの空に」で主人公が長い間働きかけて作った刑務所内の図書館。本の貸出し記録から素敵な物語が始まる「思い出ポロポロ」の学校図書館などです。

図書館は、楽しいときも苦しいときも、嬉しいときも悲しいときも、疲れたときや寂しいときも、「生きているっていいな」と思えるところです。

図書館に行けば、赤ちゃんから
お年寄りまで、いろいろな人々や
たくさんの素敵なものに出会えま
す。世界と、そして自分と出会う
場所のようにも思います。
　だから、自分の住んでいる地域
の図書館が、充実した設備を持ち、
専門の図書館の案内人がいる、た
くさんの人の〃元気のもと〃にな
って欲しい、と切望しています。

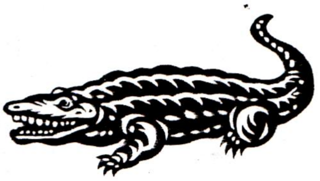
松戸市議　小沢　暁民

過ぐる日、行政視察に出向いて
いる旅先への転送電話で〃何か書
いてほしい〃ということで、あっ
さり引き受けてしまいました。が
後で、これまで「おーい図書館」
のねばり強い運動に何にも手助け
していないのに、よく引き受けた
もんだと、ただあきれるばかり
です。
　行政と一緒になって「台所事
情が苦しくて、とても図書館建
設なんかできません」と言いわ
けをしているときではないこと
だけは理解しているつもりです。
　「おーい図書館」の運動に負
けることなく、知恵を出してい
きたいと思います。

毛利　多寿子

「おーい図書館」の発行が、
100号を迎える。そして、12年間
一貫して〃手書き〃がまた凄い。
事務局のご苦労を思います。
　それにしても、いい図書館を
松戸に欲しい、と活動を始めて
12年!
　総合計画に入っていて、場所も
決まって、建てるだけらしい、
と聞いたような!?でも、でも、
なかなか実現しない。なんで?
「オーイ。としょかーん!!」

梁（ヤン）・木村　眞喜子



子どもたちの学校選びのめやす
となったものは、教育理念と図書
館（室）の実態でした。
日陰の存在の様な場所にあり、
一度書棚に収まったまま、誰かの
手が触れたのはいつのことやら、
と、生気のない図書館（室）は論外。
暮らす街を選ぶのも、同じよう
に、図書館を大切にしている行政
を選びたい。
　市民一人ひとりが、いかに自分
の頭で考え、自分の人生の充実と

共に、市政を支えて欲しいと願っているか、問われていますよ。
松戸市さん！

## 松戸市議 名木浩一

単に本を読むために本を借りるところが図書館というものだと、まだまだ思われている方も多いことと思いますが、今の時代、図書館は、私たちの生活や仕事にも必要な情報。調査、さらには中小企業の支援等、様々な情報ステーションとしての期待が高まっています。

都心に隣接する松戸市だからこそ、この様な複合的な機能とサービスを持った図書館を、是非とも実現させたいと思います。

これからも益々、「おーい図書館」の活動は重要です。
よろしくお願いします。

## みっつの本音

浅山早智子

NO.100まで、と思ってきた私にとって、ホッとしたのが本音です。

ついでに、もうひとつの本音。『ゆったりくつろげる図書館』へ通いたい。

最後の本音。いつの時代も、どこの国でも、上に立つ人が立派だったら、立派な図書館ができるんですね。

立派な人がいないから、「おーい図書館」が、がんばっていかなければならないのです！！

## 松戸市議 中田京

松戸の図書館を利用したのは、十数年前、市議会の議事録から議員の出欠状況を調べた時だけです。同じ頃、分館の書架を見て、児童書はまあ揃っている、と、感じたこともあります。

最近は、忙しさにかまけて読書量が落ちています。仕事の方も、専門書の揃った自宅の書架とインターネットで間に合っています。あまりないけれど、どうしても欲しい本は買ってしまいます。

そういう奴もいるんですけど、どう思われますか？

間部 美智子

文学書を読まなくとも、趣味・情報誌等、生活と切り離せないのが本だと思います。
周りの市は、試行錯誤の末のような特色ある図書館を建設している時代に、松戸市在住30年、未だ進歩しないのは何なのでしょう。
「おーい図書館」を知って十数年、地道な活動を拝見して参りましたが、未だ努力が伝わらない状況を、周りの者でも歯がゆいばかりです。
早く努力が報われ、図書館設立を皆さんと共に祝える日が来ますよう、祈るばかりです。

## 「おーい図書館」活動に思う

松戸市議 深山 能一

振り返りますと、平成15年5月に、恒例の浦安市立図書館の見学会に参加させていただいたのが始めで、あれから早くも2年近くの時がたちました。
見学させていただいた浦安図書館が著名な存在で、評価が高いのは今更指摘するまでもないのですが、この図書館の真の価値は「人」にある、と感じました。「図書館行政とは、自己責任型社会を支える判断材料を提供し、社会のインフラのひとつとして重要な役割を担っている」と自負する熱意あるひとりひとりが、図書館の価値を高めています。
松戸においても、行財政改革の流れの中、生涯学習社会の知的インフラ整備を目指し、市民の暮らしや仕事に役立つ、価値ある複合施設としての生涯学習会館構想が考えられています。
「おーい図書館」に携わる「人」と、行政と、各々の立場で図書館を思う「人」との熱意が、構想の価値を高め、花が咲くことを、願っております。

## こんな場所にも図書館を

山口みどり

私は職業柄、ラジオをよく聞くのだが、ある番組で、日本の拘置所や刑務所には図書館が無い事を知った。本は、差し入れられた物か寄贈された物くらいしか読めないので、差し入れてくれる人がいないと、ほとんど読めないわけだ。

拘置所や刑務所に入れられるからには、大抵はそれなりの理由があるはずだ。何故自分がそういう事になってしまったのかを考える事が一番大事な作業で、そのためには、本ほど便利な手段はないのではないか。自分の心の暗闇を写し出す手鏡のような役は、本の得意とするところだ。自分のどこがよくなかったかがわかれば、反省もできるし、どうしたらよいかも考えられる。

その必要がある所に図書館が設置されていないなんて、おかしいと思いませんか？税金を使う事になるけれど、過ちを犯した人が、自分の生き方について考え直してこそ、更生の道があるので、ここで少しの税金を惜しむべきではないと思う。

また、不当に逮捕されたり、冤罪の場合も、その人を勇気づけてくれたり、法律的知識を得るためにも必要と思うのですが、如何でしょうか？

因みに、欧米では、映画"ショーシャンクの空に"に見られる様に、以前から刑務所の図書館は充実していて、最近は服役者がインターネットにアクセスできるそうである。

## 千葉県議　湯浅 和子

「おーい図書館」ニュース100号、おめでとうございます。松戸市の図書館のあり方と必要性を繰返し〳〵私たちに教えて下さったご努力に、心から御礼を申し上げます。

県で働いていることもあり、このところ千葉県の図書館のあり方について、発言しています。県教委では「四館建設」が計画されていますが、一館の充実を進めるべきではないでしょうか。図書館は、苦悩や絶望を希望に変えてくれるところだ、と思っています。

県立図書館の新しい姿も、一緒に探って下さい。

## 93歳 推理小説大好き。でも残念!!

飯島 由美子

私の母は、93歳。

娘時代は、大正デモクラシー。そして、軍国主義がアジア諸国に侵略を繰返し、暗国時代へ入って行く時です。とにかく、良い時代を過ごした記憶なし、といいます。

母は、地方の農村に生まれ、封建制の中、男尊女卑が根強い環境にあって、尋常小学校も途中までしか行かせてもらえなく、口減らしのため子守りに出され、帰りたくて泣いたそうです。

そんな時代を過ごした母ですが

読む事や勘定する事は困っていません。一人暮らしで、すべて手仕事です。一週間に一〜二度は図書館に行って、本を借りて来ます。一度に三〜五冊は借りて来ます。推理小説が大好きで、特に内田康夫のシリーズ物が気に入っています。

しかし、以前住んでいた市川と違い、常盤平の図書館はすべてに貧弱だ、と文句を言っています。新刊が、なかなか置いてもらえないのです。

しかし、年金と貯えで細々と暮らしている母には、本を買うというお金の使い道はありませんから、図書館の本を借りるしか本を読む手段はないのです。本当に残念です。

図書館と病院が近くにあって、越して来た頃は喜んでいたのですが……。大変な時代を過ごして来て、やっとゆっくり安らかに本を読めると思ったら、行政サービスがどんどん悪くなって、好きな本も選べなくなってきている状態です。

松戸の平成17年度の図書館費の予算も、平成16年度より減らされるようです。黙っていると、どんどんサービス低下になっていきます。市政には、言い続けてくれる人を選びましょう。

## 祝・百号 お〜い図書館様

水戸 中野貴子

人間が人間でなくなった時…地球は小さながらくただ。―と言いながらも、希望を持ち続けることを教えてくれた、E・ケストナー。

困った時、お願い！っと心を澄ませば、いつでも相談にのってくれた本、松田道雄。私53歳になる今も、開くたびに力が湧いてくる。

本にも人にも、公平に出会いのチャンスを与えてくれる。ワクワクと、行かずにいられない、明るい"お〜い図書館"。

束になって（私も太く大きく参加）呼び続けましょう。

松戸市議 宇都野史行

私は、松戸市の隣、葛飾区金町で生まれ、小学校の自由研究から受験勉強まで、都立・区立の図書館をよく利用しておりました。

国民の知る権利を保障しないまま、政府が無責任にふりまく自己責任論……現状ではますます図書館の果たす役割は重要性を増しております。

「おーい図書館」の活動は、たいへん意義深いものとして受け止めており、私も協力は惜しみません。活動の一層の発展を期待して

おります。

## 危機とチャンス

常世田 良

振込め詐欺、キャッシュカード詐欺ーそれぞれ200億円以上の被害がでているといわれています。老後の生活資金などを奪われた市民に対して、ほとんどの銀行では補償の動きはひとつもありません。

このような状況を放置している銀行業界や国家のあり方に疑問を持ちますが、一方で、被害を防ぐための情報がなぜ我々に届かないのか、不思議に思います。市民が真に必要とする情報が提供されない社会であることの証拠です。

社会的責任を市民の「自己責任」にすりかえる風潮が強まるなかで、市民の財産・生命を守るための情報を、図書館が広く提供する必要があります。

図書館は危機的状況にありますが、その存在価値を証明できるチャンスも、目の前にあります。

## 「目からウロコ」の浦安市立図書館

青木 和子

14年前、学校の週5日制が始まろうとする時、児童館が一館しかない松戸市において、図書館が子どもたちの居場所になってほしいと願ったことがきっかけで、「おーい図書館」の会ができました。

発会に先立ち、初めて見学した浦安市立図書館で、十数名の参加者全員が「目からウロコ」状態となりました。これが「図書館」なのか！と。

生涯学習の拠点として、情報の発信基地として、そして、市民の憩いの場として、すべての市民に公平に開かれた図書館は、市民の大切な〳〵財産なのです。

## 後記

紙面の都合で、思う存分書いていただけなかったことを申し訳なく思いますが、たくさんの方々が実に様々な視点から「図書館への想い」を語って下さいました。

今回も、多くの皆様から「元気」を頂くことができました。

どうもありがとうございました。

今後共よろしくお願い致します。